

主日礼拝

2026 年 08 月 23 日
午前 10 時 30 分

前奏

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

「わたしは神が宣言なさるのを聞きます。

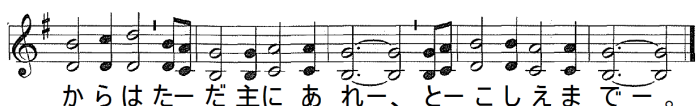
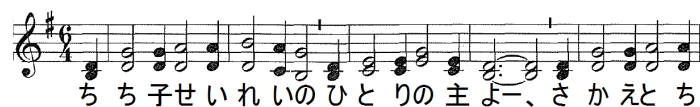
主は平和を宣言されます

御自分の民に、主の慈しみに生きる人々に

彼らが愚かなふるまいに戻らないように。」

(詩編 85:9)

頌栄 27 「父・子・聖霊」



リタニー「隣人と共に生きる」

司式者：「二人または三人が

わたしの名によって集まるところには、
わたしもその中にいる」と主は言われます。

みんな：主よ、感謝します。

司式者：神さま、わたしたちは日ごろ、
隣人と力を合わせるよりも、
自分中心に生きています。

みんな：主よ、わたしたちをおゆるしてください。

司式者：隣人の気持ちをわかろうとするよりも、
自分中心に生きています。

みんな：主よ、わたしたちをおゆるしてください。

司式者：わたしたちの心に、隣人を理解し、隣人を愛し、
隣人と共に生きる勇氣と力をおあたえください。

みんな：主よ、わたしたちに勇氣と力をおあたえください。
主によって祈ります。アーメン。

賛美 16「われらの主こそは」

The Lord is King! lift up thy voice
詞：Josiah Coder, 1789-1855

WARRINGTON
曲：Sacred Harmony, Vol. 1, 1784



- われらの主こそは 世界の王なれば、 3 正義の光は くまなく照らせば、
国々しまじま 喜びたたえよ。 全地よ、おののき み前にひれふせ。
- 誰かは逆らう 主のいつくしみに、 4 世界の民らよ、主のみを恐れよ、
誰かはあなどる 主のきよきみ旨。 栄えと力は ただ主のものなり。
- 5 生くるも死ぬるも われらは主のもの、
天地にとどろく 賛美の歌声。

祈祷

献金

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあげめさせたまえ。
み国を来らせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出したまえ。
国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
なればなり。
アーメン。

賛美 32「キリエ・エレイソン」



聖書 マルコによる福音書 12：1～12

新約(新共同訳)P85～86

1 イエスは、たとえで彼らに話し始められた。「ある人がぶどう園を作り、垣を巡らし、搾り場を掘り、見張りのやぐらを立て、これを農夫たちに貸して旅に出た。2 収穫の時にになったので、ぶどう園の収穫を受け取るために、僕を農夫たちのところへ送った。3 だが、農夫たちは、この僕を捕まえて袋だたきにし、何も持たせないで帰した。4 そこでまた、他の僕を送ったが、農夫たちはその頭を殴り、侮辱した。5 更に、もう一人を送ったが、今度は殺した。そのほかに多くの僕を送ったが、ある者は殴られ、ある者は殺された。6 まだ一人、愛する息子がいた。『わたしの息子なら敬ってくれるだろう』と言って、最後に息子を送った。7 農夫たちは話し合った。『これは跡取りだ。さあ、殺してしまおう。そうすれば、相続財産は我々のものになる。』8 そして、息子をつまえて殺し、ぶどう園の外にほうり出してしまった。9 さて、このぶどう園の主人は、どうするだろうか。戻って来て農夫たちを殺し、ぶどう園をほかの人たちに与えるにちがいない。10 聖書にこう書いてあるのを読んだことがないのか。

『家を建てる者の捨てた石、

これが隅の親石となった。

11 これは、主がなさったことで、わたしたちの目には不思議に見える。』」

12 彼らは、イエスが自分たちに当てつけてこのたとえを話された気づいたので、イエスを捕らえようとしたが、群衆を恐れた。それで、イエスをその場に残して立ち去った。

賛美 472 「朝ごとに主は」

Er weckt mich alle Morgen
詞：Jochen Klepper, 1903—1942

ER WECKT MICH
曲：Rudolf Zobeley, 1901—1991



- 1 朝ごとに主は 目を覚まさせ、
わたくしのみに 語りかける。
主のみ言葉で 迎える朝、
わたくしと共に 主はおられる。
- 2 神がこの世を 造られた日、
その時のように 神は語る。
神が与えた 永遠の言葉、
弟子たちのように わたくし聞く。
- 3 「従え」と主が 言われる時
しりごみせず私には行く。
枷をはずして 自由を与え
愛してくださる、主は私を。
- 4 主のみ言葉は 恵みに満ち、
私を包み 救いとなる。
主のみ光は 暗い目にも
わたくしを照らし 照り輝く。

説教 「捨てられた石が」

賛美 443 「冠も天の座も」

Thou didst leave Thy throne
詞：Emily E. S. Elliott, 1836—1897

MARGARET
曲：Timothy R. Matthews, 1826—1910



- 1 冠も天の座も 惜しまずに捨てて
地にくだるみ子イエスを 泊める部屋はない。
おいでください、イエスよ、ここに、この胸に。
- 2 みつかいが声高く 栄光うたうとき、
み子イエスは馬小屋で うぶ声をあげた。
おいでください、イエスよ、ここに、この胸に。
- 3 きつねには穴があり、鳥に巣はあるが、
神の子の休まれる 寝床は荒野だ。
おいでください、イエスよ、ここに、この胸に。
- 4 悲しみ悩む者を と解き放つイエスを
ゴルゴタで苦しめた 人の罪深さ。
おいでください、イエスよ、ここに、この胸に。
- 5 天国に永遠の部屋を備えられ、
勝利の主は私を みもとに呼ばれる。
喜びにあふれて 主のもとに行こう。

派遣

司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
会衆 わたしがここにおります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン



後奏

司式 喜多村 文子
説教 柴田 もゆる牧師
奏楽 福原 之織